

報徳精神を見直せ (※1)

中第29回卒 遠藤 敏雄 (※2)



太平洋戦争が終って40有余年、敗戦と云う無残な姿から這い上り、今日のような物質文明に浴した経済大国として国際社会に重要な存在となり、国民等しく平和国家の下に豊かな生活に甘んじられると云うことは、日本民族の優れた特質によることは勿論であるが、その根源は永い間培れてきた報徳精神である。

今や社会生活の全般が高度な機械化による経済活動となっているが、これらは人によって運営されていると云う観点から、先ず人づくりが一番肝要と思われる。

人多き、人の中にも人ぞなき、人人となれ、人人となせ、と云う人づくりのむずかしさを訓えており、人は天地の萬物や先祖先人に感謝し報いようとするうそ偽りのないまごころと、人々の生活、自分の生活を充実安定させるため、夫々の職業に精魂をかたむけ、綿密な計画をたてて事に当らなければならぬ心構えが大切であり、人のため世の人のために役立たなければならぬと云う報徳の訓えの実践こそが、今日の社会生活には最も不可欠なものと考えられる。

我が馬城会もこのような立派な人づくり仕法を尊守して、国家社会に役立つ人材の育成に尽力すべきものと思う。

(元相馬市助役)

(※1) 創立90周年記念誌『紅の旗』 〈1988(昭和63)年9月2日発行〉

100周年に向けて「我等〇日も頑張っているぞ!」より。

(※2) 磯部出身。